

## 僕とダム

僕は水が大好きだ。朝起きておいしい水を飲む瞬間は幸せで仕方がない。

僕が住む川上村は和歌山県へつながる、紀の川の源流だ。村が買い取った水源地の森から毎日々きれいな水が流れ出している。そんな川上村には大きなダムがあり、僕の家横に水がたまっている。そんなダムの水の色は緑色で透明ではなく、僕はなぜダムを作る必要があったのだろうか、僕はなぜダムを作る必要がなかったのだろうか、疑問に思いながら幼い頃は過ごしていた。おばあちゃんに聞くと「昔は水はきれいで、アユもいっぱい泳いでお前のお父さんもいっぱい釣ってたわ。」と言われた。おばあちゃんは、ダムで家が水没した人の一人だ。おそらくダム建設には反対していた住民の一人だったろう。僕も話を聞いていると（ダムいらんかったな。）僕も思った。しかし成長するにつれてダムの重

要

川上村立川上中学校 三年

中平 汰樹

性についてわかるようになった。

僕の家横のダム、おおたき龍神湖は完成までに六十一年以上かかり、今年にやっと完成した。僕が生まれたときにはほぼ完成していたが地すべりが起こって、それを直すために毎日ダンプカーが走り工事が進められていた。そんな工事を見ながら僕は、ダムと共に成長してきた。それから地すべり工事が完了し、試験湛水が行われ、どこからも地すべりが起こらなかった。ダムが完成した。

そして三月二十三日大滝ダム竣工式が行われた。僕は中学生代表として除幕式に参加させてもらった。共に成長してきたダムの竣工式に参加させてもらったことは一生の宝物である。

そしてその竣工式で話を聞いていると、な

ぜダムが作られたのかを詳しく知ることができた。

ダムが作られたのは、川上村でも大きな被害があった伊勢湾台風が一つの理由だ。上流にダムがあれば、川の氾濫をおさえることもでき被害を軽減できると考えられたからだ。二つ目は下流地域の水不足対策だ。昔、下流地域は大きな水不足に悩まされ、農作物を作るのも困難だった。主にこの二つの理由からダムが作られた。

僕はダム建設の歴史を聞いているとダムのすごさがわかり、このダムを持つ村に生きていることが誇りに感じられてきた。おぼあちやんの家もダムで水没し、透明な川が失われたけれど、こうして下流に住む人の役に立っていると思うとうれしくてたまらない。

また下流に住む人からは、おかげ米といって、ダムの水を使い下流で米づくりをしている農家の方々からたくさんのお米をいただき、学校給食でいただいた。ダムを通して下流の人々とながることができ、ここでもダムを誇りに思った。

僕は今ではダムが大好きだ。大雨の日は最

大まで水を貯水し、いつもたくさん水を下流へ送っているすばらしいダム。その村で成長できていること。本当にうれしくてたまらない。そんな上流に住む者として、下流にいつもきれいな水を流せるように協力していきたい。そして日本一みんなを笑顔にすることのできるそんなダムにしていきたいように、これからの川上村を考えていきたい。これからもたくさんの人のためにダムが活用されてくれることを願っている。









